

平成29年度

教育民政常任委員会行政視察研修報告書

教育民政常任委員会

委員 瀧澤 征 幸

視察テーマ と 研 修 先	「シェア金沢」のコミュニティづくりへの取組みについて 【石川県金沢市 社会福祉法人 佛子園】
視 察 内 容	<p>これまで佛子園理事長雄谷良成（おおやりょうせい）氏のご講演『私がつくる街「シェア金沢」』を2度ほど遠野で拝聴する機会があったが、社会福祉法人「佛子園」の障がい者、高齢者、児童の各福祉やコミュニティづくりの在り方を研修視察した。</p> <p>社会福祉法人「佛子園」は、石川県内に展開された13+αの様々な福祉関連施設群を統括・総括している。その中の1拠点が「シェア金沢」である。温泉、地ビールといった一見関係性のない事業なども取り入れ、彼らがいう「ごちゃまぜの福祉」は、佛子園の奇跡と言われている。昭和35年宗教法人である行善寺（戦災孤児を預かる施設）から土地や建物の寄付を受けたときから「佛子園」としてスタートした。</p> <p>2014年3月に「ごちゃまぜの街づくり」として「シェア金沢」が誕生した。11,000坪の国立結核病院跡地を入札で落札した土地である。マネージャー西田氏（今回の研修担当者）は、CCRC構想とベクトルが一致したこともあってシェア金沢が出来上がったと説明するが「過大評価されている」と控えめであった。</p> <p>シェア金沢のコンセプトは「私がつくる街」であり、建設計画の段階から地元の自治会や町民を巻き込んで実現したものである。保育園児含めた子供、大学生、高齢者といった世代間交流が図られ、障害の有無を超えての街づくりが行われている。実際、すぐ隣が小学校で午後ともなると小学生の声が絶えないし、大学生が住み込んでいて、ボランティアと引き換えに部屋代が半額になるし、温泉やカフェ、食堂、全天候型グラウンド、アルパカ牧場、ドッグラン、クリーニング屋、飲食店、児童入所施設などなど、いい意味での独自の治外法権的まちづくりが展開されていた。しかし、障がい者を働かせるのは虐待ではとの批判などもあり、順風満帆でここまで来たということでは決してないという。</p> <p>障害+介護+学童保育の予算は約4億5千万円で対応しており、5億円以上でないと黒字とならない。パートを含む80名の職員で運営されている。まさにビッグな「シェア金沢」となっている一方、</p>

	決して焦らない事業運営と、自然体で様々な事業を取り入れる柔軟性ある法人経営となっている。
感想・意見	<p>日本版CCRC政府認定モデルが「シェア金沢」なのである。百聞は一見に如かずというが、正にその通りで、ある意味、夢のような街づくりが展開されていた。何よりもそこで働く職員の皆様の目の輝きに感動し、そこで出された美味しい昼食をみんなで感謝していただいた。役職員間の信頼間はものすごいものがあると実感した。佛子園ができてから28年経過し、なお一層の魅力をはなつこの法人の底知れぬ活力は、どこから生まれてくるものだろうか。</p> <p>また、当市の将来を占うといっても過言ではないCCRC構想は、国の主導が欠かせないとしても、このような構想に向けた動きが全国的にも活発化していけばと念じて止まない。</p> <p>もし機会があれば、午後の子供たちや大学生たちが交流するシェア金沢を再訪してみたいものである。</p>

※CCRC：アメリカで発展してきている「Continuing Care Retirement Community」の略称。高齢者が、健康なときから介護が必要になる時まで一貫して継続的なケアが受けられることが保証されているコミュニティのこと。

視察テーマ と研修先	<p>婚活支援事業と定住・移住対策の取組みについて 【富山県南砺市 市民協働部 南砺で暮らしません課】</p>
視察内容	<p>「南砺で暮らしませんか（課）」</p> <p>南砺市には「南砺市協働のまちづくり支援センター」がある。土日、平日とも午前10時～午後9時まで開かれている。休みは火曜日と第4月曜日だ。役所だものこれはおかしいぞと誰もが思うはずだが、ここに大きな仕掛けがある。</p> <p>経緯は 平成21年4月市民協働課新設→平成22年4月には市民協働課がショッピングセンターに移転→平成23年4月市民協働課に婚活支援係新設→平成26年4月南砺で暮らしませんか（課）を新設→平成28年4月に市民協働課と南砺で暮らしませんか（課）が結婚し、市民協働部南砺で暮らしませんか（課）が誕生した。当初6人の職員がこの課には11名配属されている。</p> <p>このような変遷の背景には、人口減少、高齢化比率（2015年で36.2%）、将来推計人口、若年女性の人口推移のデータ等がある。これらデータを真剣に分析・調査を行っている。婚姻率・未婚率の詳細も調査し、その解決のためのあらゆる要因を洗い出し、本気で行政としてチャレンジしている。それが、</p> <p>【“あなたと私を結ぶ「赤い糸」プロジェクト”AIP48】である。その構成は、●婚活応援団なんとおせっ会さん（会員12</p>

	<p>2名) ●婚活倶楽部なんと(会員461名) ●都市との交流婚活事業「モテモテなんとお見合い大作戦」 ●出会いイベント補助金の交付 ●成婚者祝い金の交付 ●結婚記念品の贈呈 となっており、平成23年から平成28年までで78成婚カップルが誕生している。</p> <p>その他に■定住・空き家対策事業(参観過疎地域支援事業等) ■転入等世帯リフォーム助成金 ■移住定住施策各種 ■移住セミナー ■移住体験ツアー ■移住体験ハウ ■空き家バンク ■定住奨励金 ■民間賃貸住宅居住補助金 ■三世代同居等補助制度 ■定住促進雇用対策補助金 ■新幹線開業対応定住・半定住受入モデル地域育成支援 ■空き家等の適正管理に関する条例 などなどであり、婚活・定住に向けた施策の「なんと」多いことか。それを着実に実践してきている。</p>
感想・意見	<p>これら事業についての詳細は省略するが、これだけの事業を型破りな行政対応でもってしっかりと実績に結びつけているところが素晴らしいし、自治体としての本気度がこのような活発な事業運営に繋がっているところが素晴らしいと感じた。おせつ会さんの隊長は田中市長であり、婚活に関して当市はどうかと考えたとき、その本気度はどれだけのものなのか疑問がわく。</p> <p>才川議長のご挨拶の中で政務活動費について触れられた。富山は政務活動費に係る事件があったからこちらからは触れないというかん口令が暗黙のうちに敷かれていたのだが、その政務活動費について、議員個人には一切金銭(年33万円)を渡していない。費用弁償もなしという。その分、議員報酬を値上げしているという。ペーパーレス化もこの6月から実施するという。遠野市の議員待遇や今後の議会改革も本気でやらないと、という思いを強くした。</p>